

「主は一つ」 エペソ4：5

16・7・10

I 教会の一体性について、引き続き語られる。

教会は究極的には、神聖な三位一体の神の御業であるから。

：4で御霊の事、本日は、主＝御子なる神の事、：6では父なる神の事が語られる。

御父は御子を遣わし、御子は御父の栄光を現わされた。それから御父と御子は御霊を遣わし、御霊は、御子の栄光を現わされる。

「聖霊によるのでなければ、だれも、『イエスは主です。』と言う事はできません」(Iコリ12：3)。聖霊なる神は、私達を主に導かれる。御霊だけが、私達に主を見させ、主を知らせる事ができる。

ここで、御子＝主について語られるもう一つの理由は、教会をからだとして、「からだは一つ」と考察して来たことにある。かしらがなければ、からだは機能しない。誰が教会というからだのかしらか？主イエス御自身がかしらである。主ではなく、教会のある人がかしら、支配者（聞く耳、謙遜がない）になろうとする時、教会の一致は壊れる。

お互い、謙遜と仕える心を祈り求め共に主の教会を建て上げよう！

「神は、いっさいのものをキリストの足の下に従わせ、いっさいのものの上に立つかしらであるキリストを、教会にお与えになりました。教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです」エペソ1：22, 23。

「平和のきすなで結ばれて御霊の一致」を保つために、第二位格である主＝御子の教理に注目させられる。「唯一の主なるイエス・キリスト」Iコリ8：6。

主キリストは、たくさんはいない。本物は、ただ一人。この同じ唯一の主を信じる時、教会に一致が生まれる。主は、一致に導かれ、一致が常に生み出される。同じ主を信じる為に、主について教えている聖書の御言葉を良く読み味わう事が重要。御言葉を大切にしない時、「主」という発音は同じでも、違う神観、異端となる。真理の聖書が与えられている恵みを感謝したい。

II 真実に「主」と言い得る方は、ただ一人である。この主なる方は、栄光に満ち、他と比較できない方で、自存（他に依存しない）の方。

「御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れ」ヘブル1：3。

神の偉大な御子の受肉（偉大な神が、へりくだり、人々の身代わりに死ぬ為に、人間となられた）は、歴史上、他の類を見ない出来事。この事実は、非常に驚くべき真理であり、私達の理解を越えている。これが、私達の信仰の本質。

「キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず（神と等しくあることを握りしめておきたい、しがみついていたいたとは考えず）ご自分を無にして、仕える者の姿」（ピリピ2：6、7）を取られた方。

「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた」ヨハネ1：14。

主は、唯一の方。神であり、私達の救いの為に人となられたお方。一人格に二つの本質（神性と人性）を持つ方。キリスト教とは、ある考えの寄せ集めではないし、思想や哲学の寄せ集めでもない。第一義的に、キリスト教は、主ご自身のことであり、この方と私達の交わりそのものである。教訓や哲学は多種多様である為に、分裂し易い。

しかし、キリスト教は、主との人格的な交わりであり、人格を持たれる主を深く知ることであり、この方によって与えられる交わりを持つ事である。この方が唯一なので、その関係も一つ。一人の主がおられる故、この方に属し、この方と交わりを持っている者にはみな、本質的に一致がある。教会の命の一致を壊すもの、危険は、主の人格を忘れる事であり、様々な物事の背後に主を隠し、後ろに追いやってしまう事。教会に起こる問題の多くは、人々が主ご自身を忘れてしまう事が原因。私達は弱く、誤りに陥り易く、どちらか一方の極端に走り易い。私達は、この主を見失い、この方以外のものに支配され、「ただ一人」である方と私達の間に、何ものかを割り込ませてしまい易い。祈りたい。主と深く交われるように。

Ⅲ 主は一つなので、主を分割する事は出来ない。パウロは、コリント人に言っている。

「どうか、みな一致して、仲間割れすることなく、同じ心、同じ判断を完全に保ってください。…あなたがたの間には争いがあるそうで、あなたがたはめいめいに、「私はパウロにつく」「私はアポロに」「私はケパに」…と言っているということです。キリストが分割されたのですか」 I コリ 1 : 10 - 13。

1. 私達も、主ではなく、それぞれが人につく時、分派が生まれ、教会の一致は保たれない。

2. 人につかず、主につく、主に結びつくとは、人の考えではなく、主の御言葉につく、主の御言葉で養われる事である。それぞれの教会に主は牧師を立てられる。

「キリストご自身が…ある人を牧師また教師として、お立てになったのです」エペソ 4 : 11。

その目的は、「それは聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げる（分派に気を付け御霊の一致を保ち、互いに愛し合い、助け合い、主の体である教会を建て上げる）ためであり、」 4 : 12）。

3. 牧師が聖徒達を整える為に必要な事は、

①毎朝、もしくは静まれる時、主の御言葉を味わい、主につく、主に結びつくディボーションを教える事。

②毎週の礼拝説教で、主の御言葉の講解説教で主の御言葉で養われ、主の御言葉、聖書につく、主につくように整える。教会員に祈られ、説教の準備の中で牧師自身が教えられ養われつつ、牧師自身が主につく、主に結ばれつつ。

③主を間において交わり、主の御言葉を味わい、祈り合い、共に主につく。

4. 主につく事と聖書が教える主にある交わりは矛盾しない。主にある親しい交わりで大切な事は、親しい仲にも礼儀あり、親しい交わりほど、間に主を置く事が秘訣。主を間に置かない親しい交わりは、いつか壊れる。主の喜ばれる交わりは、祈りで始まり、親しい交わりの会話と主の御言葉の恵み、主の恵みの分かち合いのバランスがある。主を間に置く交わりは、互いに養われ教会の一致を保つ。